

# 令和7年度 東京都立忍岡高等学校 学校経営報告

7 忍高第1318号  
 令和8年3月31日  
 校長 紺野 智恵子

## I 教育活動への取組と自己評価 課題と今後の改善策

### 1 学習指導の充実

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1)生徒の学力向上に資する授業の実践	①生徒自らが学習習慣を身に付け、学力伸長を図ることができるよう、確認テスト、週末課題、単元課題等を計画的、継続的に実施、90分以上の家庭学習習慣を定着させる。 ②よりよい授業を目指して、年2回以上の相互授業参観と報告書の提出、教科会等における情報交換、意見交換を積極的に行う。 ③生徒の学力状況を把握し、授業改善に取り組むために、授業評価、模試のデータを積極的に活用する。	学校評価（肯定的評価） ■わかりやすく、よく理解できる授業 生徒 69% 保護者 62% 教職員 84% ○「わかりやすく、よく理解できる授業」肯定的評価は昨年度比で生徒が3%ダウン、生徒と教職員のとらえ方の差は大きい。生徒が主体的に取り組み、成を感じる授業を目指す。 ○相互授業見学期間の見学、レポート提出により、教員の授業振り返りを実施した。 ○確認テスト・週末課題は課題提示のみではなく、目標の設定を明確にすることが課題。 ○模試分析について学年から教科主体に変更し、データ分析を進める。 ○成績上位者を伸ばす授業展開の工夫が課題である。 ○授業アンケートが年1回実施となり、生徒の声を聴き、授業改善につなげることができなかった。各学期にアンケートをとり、振り返りをすることが課題。
(2)生徒が主体的に取り組む対話的で深い学びによる学力の伸長	①授業において、講義、説明、実技、実習以外にも、思考力、判断力、表現力等を育成するため、発表活動、相互評価等の学習方法を工夫し、生徒の関心、意欲、自ら学ぶ姿勢を高め、学力の伸長を図る。 ②「スキルアップ推進校」プログラム(コミュニケーションスキル、デジタルスキル、グローバルスキル)を活用し、課題解決に向けた創造的・論理的思考力の育成に取り組む。 ③わかる授業、深める授業を助ける手段の一つとして、ICT機器やデジタル技術を積極的、効果的に活用する。	①授業において、講義、説明、実技、実習以外にも、思考力、判断力、表現力等を育成するため、発表活動、相互評価等の学習方法を工夫し、生徒の関心、意欲、自ら学ぶ姿勢を高め、学力の伸長を図る。 ②「スキルアップ推進校」プログラム(コミュニケーションスキル、デジタルスキル、グローバルスキル)を活用し、課題解決に向けた創造的・論理的思考力の育成に取り組む。 ③わかる授業、深める授業を助ける手段の一つとして、ICT機器やデジタル技術を積極的、効果的に活用する。
(3)生徒の進路希望に応える教育課程の編成・実施と履修指導の充実	①担任、教務部、進路指導部、教科が連携し、将来設計を考えた進路実現を果たす履修指導を実施する。 ②一般選抜・総合型選抜・推薦型選抜等多様な選抜に対応するための履修指導を徹	○履修指導にあたり、進路指導部・教務部・担任が連携し、進路希望にあった履修指導を実施した ○2年次学校選択科目を進路に対応した科目選択ができるように変更した。

	<p>底する。</p> <p>③生徒が自らを理解し、より良い進路選択ができるよう、面談週間を活用し、生徒や保護者との情報共有を進める。</p>	
--	---	--

【課題】

- 主体的に学び、学力を伸ばすための授業研究・授業改善
- 教科指導の目標の明確化と可視化による指導体制の確立
- 自主的な学習習慣を確立させるためのICTの利活用の促進・支援

【今後の改善策】

- ◎多様な層の生徒のニーズ把握のための授業評価・振り返りの実施
- ◎データに基づいた教科指導と補習・自主学習のための課題設定と進捗管理
- ◎ICT活用研修を含め校外での研修への参加

2 進路希望の実現

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1)「3年間の進路指導計画/年次別計画とテーマ」に基づく組織的な進路指導	<p>①生徒の進路希望に基づき「3年間の進路指導計画/年次別計画とテーマ」に則ったキャリア教育の実施とデジタルツール等を活用した生徒自身の自己管理能力を育成する。</p> <p>②進学に向けた適切な模試等の実施と分析を行い、デジタルデータを活用して進路指導を可視化し、教職員間、生徒、保護者で情報を共有する。</p> <p>③面談週間を活用し、科目選択に関する履修指導、学校選択や受験方法等に関する進路指導を通じて、生徒が一つ上の目標に粘り強く挑戦する力を育成する。</p>	<p>学校評価（肯定的評価）</p> <p>■進路情報の充実 生徒 68% 保護者 70% 教職員 89%</p> <p>■進路指導体制 生徒 77% 保護者 67% 教職員 81%</p> <p>○進路指導体制に関しては肯定的意見は生徒 7%、保護者 4%、教職員 5%アップした。しかし、教職員と生徒・保護者とのとらえ方の差は依然として大きい。</p> <p>○進路通信の発行により、保護者への情報提供が増加し、評価上昇につながった。</p> <p>○教員研修・模試分析会の開催等により、データが可視化され、進路指導に関わっている意識を持つようになった。</p>
(2) 大学進学への意欲向上に資する補習・講習と進路行事の充実	<p>①大学進学希望者等への受験講習や日常的な補習を計画的に実施し、自習室チューターを活用し学びの機会を充実させる。</p> <p>②学習 90 分以上の家庭学習習慣を定着させ、生徒の実力を育成する。</p> <p>③大学訪問等の高大連携事業を活用して、進学や学習への意欲を喚起し、大学受験への意識と意欲を高める。</p>	<p>■高大連携活動の充実 生徒 64% 保護者 52% 教職員 78%</p> <p>○生徒・保護者・教職員において、10%以上のアップがみられた。大学訪問・大学公開講座案内と参加等の情報周知に努めたことが効果的であった。</p> <p>○自習室チューター制度を開始、利用率も上昇してきている。</p>
(3) 資格取得による能力・適性の伸長	<p>①英語検定をはじめ、各種検定や資格取得、コンクールへの応募等を奨励し、生徒の能力や適性を伸ばすことによって自信をもたせ、進路希望の実現に挑む態度を育成する。</p> <p>②単位制高等学校として、学校外の学修成果も卒業に必要な単位として認定できる制度を周知し、効果的に活用する。</p>	<p>■検定等への機会・意欲 生徒 67% 保護者 68% 教職員 73%</p> <p>○生徒 3%、保護者 10%程度のダウンがみられた。英語検定全員受験を実施し2年目となったが、検定受験方法等についての周知、受験への動機づけが課題。</p> <p>□実用英語技能検定（準1級・2級・準2級）13名</p> <p>□日本漢字能力検定（2級・準2級）4名</p> <p>※家庭科関係の検定</p>

【課題】

- 全教職員による進路指導に係る情報共有と当事者意識の醸成
- 自主的に学習時間を確保するためのサポート体制の確立
- 資格取得に挑戦させる土壌の整備、意欲の喚起と実践、自信の育成

【今後の改善策】

- ◎進路指導部と担任が連携し、年間指導計画に沿った進路行事・探究授業を推進
- ◎外部模試の結果によるデータ分析・チューターを活用した指導の推進
- ◎検定準備等による全教職員による指導体制の確立

3 人権に配慮した生活指導と特別活動の充実

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 生活指導の充実と人権を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①都立高校生活指導指針に基づき、あいさつ、身だしなみ、遅刻防止等の指導に全教職員で取り組む。</li> <li>②体罰の禁止・根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応について研修を実施し、情報共有を進め、全教員で指導に取り組む。</li> <li>③SNS等に関する指導を行い、人権意識を徹底させ、規範意識の向上と情報モラルや個人情報等の適切な取り扱いに関する指導を行う。</li> <li>④薬物乱用防止や交通マナー等について、学年集会や学校行事等を通じて徹底させる。</li> </ul>	<p>学校評価（肯定的評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■十分な生活指導の実施 生徒 80% 保護者 76% 教職員 68%</li> <li>■人権・マナーについての指導の充実 生徒 74% 保護者 62% 教職員 78%</li> </ul> <p>○十分な生活指導の実施において生徒、保護者はアップしている一方、教職員は10%以上ダウンした。特に教職員の朝の登校指導が2年目に入り、生徒は登校指導等を受け止めている。</p> <p>○生徒が変化していることに合わせて、画一的ではない、生活指導が求められる。</p> <p>○SNS 使用に関するトラブルが増えている点に気を付けて指導をする。</p>
(2) 日本の伝統・文化の良さを発信する能力や態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教科「日本の伝統文化」における成果発表等の機会を増やし、授業の活性化を図る。</li> <li>②JET等を活用した国際理解教育を推進するとともに、ドイツ語、韓国語、フランス語、中国語の講座を通して文化的、人的な交流を行う。</li> <li>③「海外学校間交流推進校」として、フランス・台湾との学校間交流や留学生受け入れの機会を活用し、国際社会の中での日本の魅力を発信、生徒の国際感覚を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本の伝統文化や国際理解に関する学習の充実 生徒 68% 保護者 79% 教職員 99%</li> </ul> <p>○生徒が10%ダウンしている。海外学校間交流推進についての情報の発信不足等が理由として考えられる。</p> <p>○日本の伝統文化の授業の発表会実施等広く周知していく必要がある。</p>
(3) 学校行事・部活動を通じた生徒の主体性の伸長と活力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①体育祭、文化祭、球技大会では、全生徒に主体性をもって行事に参加させ、学校生活や行事での達成感を持たせるよう指導する。</li> <li>②自己肯定感、コミュニケーション能力や周囲と協働する社会性を育むために、特別活動の活性化を図り、部活動への参加を推奨する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■特別活動の充実 生徒 67% 保護者 65% 教職員 52%</li> </ul> <p>○生徒、保護者ともアップしている。部活動加入率が上がり、部活動の活性化が図られた。生徒の行事参画意欲も次第に高まっている。</p>

【課題】

- 全教職員による生活指導・人権教育への取組の継続
- 日本の伝統文化・海外学校間交流における情報発信の強化
- 部活動の加入率と学校行事の活性化による生徒の主体的取組の強化

【今後の改善策】

- ◎海外学校間交流事業をはじめとする国際交流事業への参画の実現
- ◎生徒主体の部活動や学校行事運営の推進
- ◎身だしなみ指導・挨拶指導を継続

4 健康・安全教育の充実

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 心身の健康を増進する体力の向上と相談体制の確立	<p>①規則正しい生活による基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒自らが心身の健康を維持、管理できる態度を育てる。方法の一つとして「都立学校版コンディションレポート」を適宜活用する。</p> <p>②スクールカウンセラーや専門機関と連携し、特別な支援を必要とする生徒への対応や、生徒のメンタルヘルス及びSOSの出し方に関する教育に全校で取り組み、生命尊重の意識と態度を根付かせる。</p> <p>③体力テストの結果分析を踏まえ、筋力、走力に資するトレーニング等を取り入れ、TOKYOACTIVE PLAN for students に基づく生徒の体力の向上、健康の保持増進を図る。</p> <p>④食育指導計画に基づいて食育の充実を図り、全校生徒の食習慣や食生活に対する意識を高め、健康な体づくりを推進する。</p>	<p>学校評価（肯定的評価）</p> <p>■健康・安全に関する学習の充実 生徒90% 保護者62% 教職員84%</p> <p>■教育相談の十分な環境整備 生徒79% 保護者61% 教職員94%</p> <p>○健康・安全に関する評価はアップしている。保護者は「わからない」という回答が多いことから、保護者への周知を図ることが必要である。</p> <p>○SCの認識が高まり、利用率もアップした。</p>
(2) 学校事故の未然防止と校内美化	<p>①生徒が安心して安全な学校生活を送ることができる校内体制を維持し、学校事故ゼロを目指す。</p> <p>②防災教育を推進、消防署や警察署、地域住民等との連携を強化した避難訓練や防災訓練を通して自助、共助、公助の精神を培う。</p> <p>③校内環境美化の意識を高め、生徒中心の美化活動や安全で安心できる学校づくりに努める。</p>	<p>■外部・地域と連携した防災教育の推進 生徒85% 保護者66% 教職員89%</p> <p>○生徒、保護者ともアップしたことから防災教育への理解が進んでいることがわかる。</p> <p>○外部連携を図り、防災教育を実施し、さらに、地域住民との連携を進めることが課題。</p> <p>○清掃活動に組織的に取り組み、清掃活動を活発化し、校内美化に努める必要がある。</p>

【課題】

- 遅刻・欠席が多い生徒、特別な支援が必要な生徒の早期発見・早期対応
- 清掃活動の活発化による校内美化・安全教育の推進

●目的を明確にした防災訓練の実施と防災意識の向上

【今後の改善策】

◎教育相談委員会と担任・授業担当者間での情報共有の推進、教育相談委員会の情報共有の推進

◎防災教育の目的の明確化工夫した地域住民と連携した防災教育の推進

◎清掃活動による組織的校内美化・安全教育の推進のための計画作成・実施

5 生活科学科の特色ある教育活動の推進

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 生活産業を担うスペシャリストの育成	<p>①生徒に専門的な技術・技能を確実に修得させ、資格取得を推奨するとともに、地域社会や生活産業に貢献する人材を育成する。</p> <p>②大学・専門学校、地域、産業界との連携を深め、高度な授業と目標達成に向けて努力する力を育成する。</p>	<p>○地域や企業との連携による実習・体験を進め、専門技術・技能の習得に努めた。</p> <p>「検定合格状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書デザイン検定1級11名</li> <li>・家庭科技術検定</li> <li>食物調理技術検定1級14名</li> <li>被服製作技術検定1級25名</li> <li>保育技術検定1級7人</li> <li>三冠王（技術検定3種目1級）1名</li> </ul>
(2) 学習成果の発表と活動状況の発信	<p>①文化祭、課題研究発表会等を通じて広く学習成果の発信を行うとともに、課題研究の発展と生活科学科の特色化を図る。</p> <p>②生活科学科への入学志望者の確保を図ることを目的とする広報活動(説明会、中学校訪問、HP、インスタグラム等のメディアの活用)や体験授業を充実させる。</p>	<p>○課題研究発表会を実施し、自己の課題の発見研究に取り組んだ。普通科の探究発表会と同日開催として、普通科、生活科学科ともに相互学習ができる機会となった。</p> <p>○生活科学科のインスタグラムにより、生徒の学習の様子等を広報活動が進んだ。</p>

【課題】

●スペシャリストの育成のための知識・技能の育成と検定や資格取得、コンクールへの挑戦

●課題研究や体験授業等による専門教育の充実

●国際交流を活用した生活科学科の特色づくりと入学志望者の確保

【今後の改善策】

◎特別専門講師・外部機関との連携による質の高い授業の継続による学びに向かう意欲の向上

◎文化祭や学習発表会・外部機関と連携した発表機会を増設

◎専門学科の学びの明確化による在校生の姿を伝える広報活動の活性化

## 6 広報活動の充実と開かれた学校づくりの推進

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 特色ある教育活動の周知と広報活動の充実による入試倍率の向上	① 授業公開、学校見学会、学校説明会を通じて本校の特色を伝え、体験授業や個別相談を丁寧に行い、学校全体で募集活動に取り組む。 ② 外部説明会、出前授業、中学校での説明会等に学校全体で取り組む体制を構築する。 ③ DX 推進校のプログラムを活用し、地域行事への参加、公開講座開催等を通し地域連携や情報発信を進める。 ④ ホームページやインスタグラムによる情報発信を進め、日々の教育活動や入試関連情報を積極的に発信し、志望者増につながる広報活動を学校全体で展開する。	学校評価（肯定的評価） <b>■教育活動の・特色の十分なPR</b> 生徒 85% 保護者 74% 教職員 89% ○生徒が 20%アップした。受検生に学校の様子が浸透しはじめている効果で今年度の入学選抜の倍率もアップした。 ○HPの更新も目標の 320 回を上回った。
(2) 地域との連携によるボランティア活動の推進と学校施設開放事業の実施	① 地域イベントへの参加、警察、消防、幼稚園や小中学校等と連携したボランティア活動を通して地域に貢献し、豊かな心を育成する。 ② 地域防災訓練等の地域行事に参加し、地域と連携した防災意識を構築する。 ③ 校庭開放(日曜)、公開講座を活用し、地域に開かれた学校づくりをする。	<b>■地域との連携</b> 生徒 66% 保護者 50% 教職員 78% 地域 71% ○地域と連携した防災訓練、警察と連携した防犯ボランティア活動を実施した。 ○校庭開放・公開講座も活用しながら、地域連携を図った。 ○生活科学科を中心とし、地域産業界との連携は進んだ。 ○公開講座による地域連携を図った。

### 【課題】

- 塾等への周知、インスタグラム等を使用した PR の推進、出前授業による知名度アップ
- 地域と連携したイベントの開拓

### 【今後改善策】

- ◎ 近隣地域イベントへの積極的参加、公開講座の増設
- ◎ 塾への PR と中学校へ出前授業の回数の増加
- ◎ インスタグラム等を使った PR 活動の強化

## 7 組織的な学校経営と経営企画室の参画

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 組織的な学校経営と協働体制の充実	<p>① 企画調整会議を中心とした組織的な学校経営と全教職員の協働体制による円滑な校務運営を推進し、学校における課題の解決を図る。</p> <p>② 個人情報の適切な管理、体罰防止、会計事故防止等、教職員の服務事故の未然防止に努め、都民から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>③ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、計画的な仕事の進め方を実践し業務の効率化を図り、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>④ ICT機器やデジタル技術を活用して、ペーパーレスや時間短縮が可能なことへの取り組みを学校全体で推進する。</p>	<p>学校評価（肯定的評価）</p> <p>■ 施設・設備の整備</p> <p>生徒 61% 保護者 71% 教職員 68%</p> <p>○ トイレの洋式化が進んだ。</p> <p>○ 来年度は体育館 LED 化工事予定。</p> <p>○ 勤務時間外の在校時間が減少傾向にある。</p> <p>○ 会議期間の短縮、ペーパーレスを実施した。会議時間の短縮ができた。</p>
(2) 経営企画室における学校経営参画の促進	<p>① 計画的な予算執行、適切な施設・設備の維持管理、迅速な事務処理等を行い、効率的な学校経営を実現する。</p> <p>② 入学者選抜に係る事務については、適正でミスのない業務を遂行するために、教育職員と経営企画室職員との連携体制を確実に整える。</p>	<p>○ 予算執行率 99.9%。</p> <p>計画的な予算執行ができた。</p> <p>○ 入学選抜業務における教職員と経営企画室間の連携体制が取れた。</p>

II 令和7年度の重点目標・数値目標への取組と自己評価 ○：達成 △：未達成

重点目標・数値目標	取組	自己評価
(1) 四年制大学及び短期大学への進学者数 100名以上	3年次進路が中心となった年内入試対策指導。	四年制大学・短期大学進学者数116名○ (令和6年度111名) 共通テスト出願79名
(2) 卒業時の進路未決定者(浪人等を除く) 0名	進路相談、進路開拓等の粘り強い指導の継続。	進路未決定者数 21名△
中途退学者数 0名	本人・保護者との連携、面接による意思・進路確認	中途退学者数12名△ (令和6年度3名)
部活動加入率 60%以上	部活動指導員による指導・大会参加等	部活動加入率65%○ (令和5年度57%)
ホームページ更新回数 250回以上	学校行事・学校見学会・学校説明会の案内等情報発信	ホームページ更新回数 330回○ (令和5年度295回)
年間皆勤生徒 20%以上	担任による粘り強い指導	3年次17名 2年次12名 1年次25名 8%○ 3年間皆勤5名(令和6年度5名)
学習指導の理解度 生徒の肯定的評価 75%以上	習熟度別授業、少人数授業、講習、補習、確認テスト、週末課題の実施。	生徒の肯定的評価69%△ (令和6年度72%)
学校生活の充実度 生徒の肯定的評価 85%以上	体育祭(屋内会場)文化祭(土日)球技大会(1日)	生徒の肯定的評価83%△ (令和6年度79%)
特別活動の充実度 生徒の肯定的評価 75%以上	学習成果発表会・探究発表会等生徒の学習成果発表ができた。	生徒の肯定的評価67%△ (令和6年度65%)
本校への来校者数合計(学校見学会、学校説明会、学校訪問、授業公開等) 2,000名以上	学校見学会、学校説明会等の生徒説明等の導入、平日学校見学会、授業公開土曜日開催	来校者合計2,436○ (令和6年度2,096)
入学者選抜の応募倍率 推薦 普通科:2.50倍以上 生活科学科:2.20倍以上 学力 普通科:1.30倍以上 生活科学科:1.30倍以上	中学校への出前授業8回 中学校、塾へのチラシの配布	<b>【推薦】</b> 普通科1.81倍 生活科学科2.24倍 <b>【学力】</b> 普通科1.08倍 生活科学科1.10倍 (令和7年度入学者選抜) <b>【推薦】</b> 普通科1.63倍 生活科学科1.90倍 <b>【学力】</b> 普通科0.88倍 生活科学科0.85倍
資格・検定等合格者数(普通科・生活科学科合計) 100名以上	各教科での受検支援準備 英検全員受験	合計63名△ 生活科学科 (被服・食物・文書デザイン1級)46名 英語検定(準2級以上)13名 漢字検定(準2級以上)4名